

Finland も BPA の科学に耳を傾けている

BY STEVEN HENTGES, PH.D, 2016 年 8 月 15 日 IN INDUSTRY, MEDIA

フィンランド労働衛生研究所(Finnish Institute of Occupational Health: FIOH)と国立健康福祉センター(National Institute for Health and Welfare :THL)は、最近美容院に於ける化学物質暴露に関する報告書を公表しましたが、それら化学物質の一つにビスフェノール A(BPA)が含まれています。最初に要点を述べておくと、「報告書の結果は、フィンランドの美容院ではその他の一般大衆と同様、BPA 暴露はない。」と言う事です。

あなた方はおそらくフィンランドの美容院に於ける健康に興味を持ってと言う理由で、このブログを読んでいる訳ではないでしょうが、一見したところ無害だと言う発見によって BPA の安全性に関する重要な点が明らかにされます。かねてから美容院では店でヘアケア製品を使用する事で、危険なレベルの種々の化学製品に暴露されると懸念されていました。我々は今 BPA が危険な化学物質ではないと確信できます。

たとえ美容院にいないとしても、あなた方がヘアケア製品を使用するのであれば、この結論は注目に値します。もし、ヘアケア製品を使用する美容院で一日の労働時間を通して BPA に暴露されていないとすれば、消費者が同じ製品を自分自身で使う場合にも BPA に暴露されていない可能性が高いと言えるでしょう。

報告書の研究成果は驚くには値しません。—ヘアケア製品に BPA は使用されていないばかりか、ついでに言えば他のパーソナルケア製品についても同様です。BPA はポリカーボネートやエポキシ樹脂製造用の主原料として使用されていますが、BPA は「どこにでもある化学物質」であると良く誤解されています。(もし、私の言う事が信用できないなら、インターネットがどんな「事実」を提供するかを知るために、Google で「everywhere chemical BPA」と検索してみてください。)

おそらくもっとも大事なのは、この新しい報告書の結論が、世界中の他の政府機関がレビューした BPA についての [見解と矛盾しない](#) 事です。フィンランドの報告書では、「これら化学物質の尿中濃度測定値は、入手可能な健康に基づくガイダンス値よりも低い。」と結論付けており、この事は健康リスクが確認されなかった事を意味しています。

同様に、欧州食品安全機関(EFSA)は、最近「現在の暴露レベルに於いては(胎児や乳幼児、思春期の子供を含む)どの年齢層の消費者に対しても BPA は健康リスクを及ぼさない。」と結論を下しています。さらに重要なことに、米国食品医薬品局(FDA)は、「BPA は安全ですか?」と言う質問に対して、単刀直入に「[はい](#)。」と答えています。彼らは全て BPA の科学に正しく耳を傾けています。